

社会医療法人博友会 広報誌

Hakuyukai - Dayori

博友会だより



医療・看護・介護を通して地域に貢献いたします

ご自由に
お持ち帰りください



中高生の不登校

背景に学校生活や家庭生活でのストレス

社会医療法人博友会 平岸病院 精神科 / 滝川メンタルクリニック 梶本 貴栄

社会医療法人博友会は5つの施設で社会貢献しています



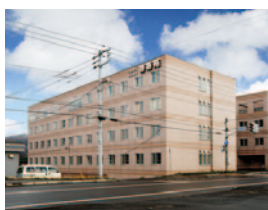
平岸病院

精神科・神経科・内科・神経内科・歯科・訪問看護
赤平市平岸新光町2丁目1番地
TEL: 0125-38-8331



北の峰病院

精神科・神経科
富良野市中御料2062番地
TEL: 0167-22-2011



介護老人保健施設博寿苑

入所・短期入所・通所リハビリテーション
赤平市平岸新光町2丁目4番地
TEL: 0125-37-2001



共同生活援助事業所グループホーム博友荘

入居による生活援助
赤平市平岸新光町4丁目34番地
TEL: 0125-37-2077



博友会滝川メンタルクリニック

神経精神科・心療内科
滝川市東町2丁目40番12
TEL: 0125-26-5001

中高生の不登校

背景に学校生活や 家庭生活でのストレス

不登校になる生徒の多くは初期の段階で、「頭が重い」「食欲がない」「夜眠れない」といった身体症状を訴えています。内科で異常が見つからないのに症状がなくなり、不登校が続いている場合は、精神科でご相談ください。



いきいき
健康生活



内科で異常が 見つからない場合には

不登校が続くと毎朝繰り返される親子ゲンカで関係が悪くなり、親子だけでは解決が難しくなります。心理的なストレスが身体症状を悪化させ、悪化した身体症状のために生活の質が低下し、それがまた心理的なストレスになるという悪循環が起きます。

思春期の症例は個人差があり、症状もつかみにくいのですが、家族が思っている以上に、本人は症状に対して苦痛を感じています。その苦痛の解決に取り組むことが不登校の治療の第一段階になります。

内科で異常が見つからないのに、睡眠障害や摂食障害、なんとなく体

社会医療法人博友会
平岸病院 精神科 /
滝川メンタルクリニック

梶本 貴栄

昭和48年 福岡市生まれ
平成22年 熊本大学医学部医学科卒業
平成23年 市立赤平総合病院
平成25年 社会医療法人博友会 平岸病院勤務

調が悪いという状態が続く場合は、その症状を緩和する治療を行います。また、原因疾患に発達障害や統合失調症がないかを調べます。

焦らずにじっくりと 経過観察を

不登校の背景に、学校内のトラブルや家庭内の問題があることも少なくありません。その場合はカウンセリングを行うことで、対人関係スキルが上がり、良い結果が得られることがあります。

子どもの社会化の促進には、薬物療法と心理療法だけでなく、第三者の介入が効果的に働くことも。面談で「本人が心を開いている人物（学校の担任教諭や養護教



頭が重い…

食欲がない…

眠れない…

諭など」を見つけ、治療への協力をお願いすることもあります。治療は医師の一方的な判断で行うのではなく、家族によく説明をし、話し合いながら進めます。

精神科での診断や治療には、長期的で定期的な経過観察が必要になります。なかなか改善が見られないからと途中で受診を打ち切らないようにしましょう。家族が患者さんの日々の言動に焦らずに、医療者と協力体制を作ることが大切です。

四季を楽しみ、笑顔で過ごす時間を

各施設で積極的に季節行事を行っています

社会医療法人博友会では、各施設でそれぞれに季節行事を企画・実施しています。職員と患者さん、利用者さんが一緒に準備にあたり、行事が近づくに従って病院や施設の雰囲気が盛り上がり、ますます。「楽しんでいただける行事にしたい」と張り切る担当職員から、お話を伺いました。

平岸病院

患者さんのために
新しいことに挑戦をしたい

今年の盆踊りは
7年振りの屋外開催

精神科病棟（第1・3・8病棟）合同で季節行事を開催しています。

患者さんの高齢化に伴い室内で開催していた盆踊りを、今年は7年振りに屋外で開催。会場は病院裏にあるテニスコートで、山森建設株式会社の協力を得て、盆踊り用のやぐらを設置しました。車い



盆太鼓を叩く 赤平火太鼓保存会の子どもたち

すの患者さんが多いことから、昼間の開催となりましたが、模擬店では水射的やシャボン玉を楽しんだり、かき氷やジュースで喉を潤していただきました。また、赤平火太鼓保存会に協力を依頼。総勢20人余りが見事な演奏を披露してくれました。



第3病棟主任
小山泰宏

春：バーベキュー
夏：運動会、盆踊り
冬：クリスマス会

介護老人保健施設 博寿苑

家族と一緒に楽しめる
工夫をしています

職員のパフォーマンスも
好評です

博寿苑には約50人の職員がいますが、全職員がかわりながら季節行事を企画・実施しています。特に秋の敬老会、事前にご家族に案内しながら行う特別行事です。

今年は、春と夏の行事で撮影した写真のスライドショーの上映に始まり、入所者さん有志10人が懐メロを合唱し、男性職員がヤングマンを熱演しました。バックダンサーは、私と副施設長。職員と入所者さんが、カラフルなスズランテープで手作りのポンポンを持って、ステージを



師長 岩倉美由紀

春：回転寿司、買い物
夏：夏祭り、盆踊り
秋：敬老会、外食、買い物
冬：クリスマス会、新年会

また毎月1回、季節感のある行事食を提供。調理員が目の前で握るお寿司やバイキングも好評です。

盛り上げてくれました。実用品やお菓子が当たる抽選会も恒例となり、入所者さんご家族の皆さんと一緒に賑やかな時間を楽しく過ごしました。



アルバム仕立ての
プログラムも大好評



敬老会

デイケアセンター こもれび

センター長 木下 淳（作業療法士）

一人ひとりの利用者さんの
課題に焦点をあてながら

「デイケアは退院後の利用者さんの居場所的な機能を有しながらも、地域生活につないでいく重要な通過施設です。しかし、社会資源が少ない地域では支援期間が長期に及びがちです。そうした中、利用者さん一人ひとりの課題を視野に入れながら、自主性を育てる支援が必要で

要です。現在の利用者は40～70代。一日平均25人前後が通い、手芸や創作活動、農園作業などを行い過ごします。「自宅でのひきこもり」を予防し、「病気の回復

を支援する」ことが目的ですが、仲間づくりやストレス解消にもつながるよう、個々人を支援します。

自主的な参加を促すため、日々のプログラムや行事がパターン化しないように、「参加したい」「一緒に楽しく過ごせたい」と感じていただける工夫を加えたいと思っています。



趣味活動は生活の張りにつながります



交流の場にもなっている食堂



食事は栄養バランスを考え、提供しています



【訃報】社会医療法人博友会監事吉本勲（医療法人社団厚北会吉本病院理事長・院長）はかねてより病氣療養中でしたが、平成25年8月31日に享年82歳で永眠いたしました。告別式は9月2日に滞りなく相済ませましたことをご報告致します。

また、故人が生前賜りましたご厚誼に対し感謝するとともに、心より御礼申し上げます。

共同生活援助事業所グループホーム 博友荘

施設長 亀畑佳宏（作業療法士）

一緒にいる時間を増やしたい
ともに歩みたい

グループホームは単身や地域での生活に不安のある方が共同生活を営みながら、「社会生活に適應する主体的な生き方」を学ぶ施設です。

入所者各自で洗濯や掃除など



を行い、職員が食事の提供や日常生活における支援や援助を行うことで自立した地域生活を目指します。月曜から金曜は、隣接するデイケアセンターに通い、それぞれに応じたプログラムに参加します。

入所者の方々が今までと同様に安心して暮らすことが出来るように前任者からアドバイスを頂きながら、皆さんの声に耳を傾け、共に生活を支え合っていくつもりです。また、遠慮なく相談してもらえ関係づくりを心がけていきたいと思っています。